

博物館だより

No.50

平成22年6月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

歴史を学ぼり—文化にふれよつー

歴史講座受講生募集!

博物館では「歴史講座」の受講生を募集しています。

歴史講座には「漢詩文講座」「古典かな講座」「古文書講座」「金曜古文書講座」「みやこ学講座」の名前があります。年度途中からの受講開始も大歓迎! 受講希望の方はお気軽に博物館までお問い合わせください。なお、各コースともに、1回につき資料代200円が必要です。

講座内容紹介

【漢詩文講座】

●講師 宮原加代子先生

●内容 昭和の元号を創案した吉田増蔵(今は学軒)はふるさと出身の漢学者です。彼の詩の鑑賞を通して、新たな学軒像を発見してゆきます。漢詩の基礎も学習しますので初心者も歓迎です。

●実施日 每月第1土曜日 午前9時30分~

【古典かな講座】

●講師 宮原加代子先生

●内容 今年は平城遷都三千三百年目の年。その奈良時代に筑紫を中心に行なった万葉歌人の歌を手習いしつつ鑑賞します。初心者大歓迎! 用紙と鉛筆あるいは筆ペンを用意下さい。

●実施日 每月第3土曜日 午前9時30分~

【みやこ学講座】

●講師 当館学芸員

●内容 郷土の歴史について、講義や現地見学、体験学習などを行います。

●実施日 每月第4土曜日 原則、午前10時00分~

●講師 川本英紀
●内容 江戸時代の人々が「くずし字」で書いた手紙や日記などを解説します。特にみやこ町に関係する古文書を歴史的な背景について解説を交えながら読み進めます。

●実施日 每月第2土曜日 午前10時00分~

○入会の方法

博物館の窓口で会費を納めてください。

○年会費

個人会員	3000円
家族会員	1名2000円

※年度途中入会者は月割会費

○問い合わせ先

博物館内 友の会事務局
TEL 0930-33-4666



みやこ町歴史民俗博物館

友の会会員募集!

みやこ町歴史民俗博物館友の会では、平成22年度の会員を募集しています。

博物館友の会は「故郷を愛するには、まず故郷を知ることから」をモットーに、講演会やバスハイク、史跡めぐりなどの行事を行っています。平成21年度の会員数は210名で、いかなる団体からも補助は受けず、会費収入のみの独立採算で運営しています。興味のある方ならどなたでも参加いただけます。ぜひ、ご入会ください!

- 8月22日 文化財見学会
重要文化財「永沼家住宅」見学会&修理設計者講演会
- 9月19日 文化講演会
「本庄の大楠」についての講演会と現地見学会
- 10月23日 伝統芸能鑑賞会
筑前琵琶鑑賞会(題目「秋月の乱」)
- 11月7日 歴史探検ウォーク
大坂山登山
- 12月4日 三重塔すす払い
八女の史跡めぐり
- 12月28日 バスハイク

この他にも、数々の行事を予定している!

県指定文化財「三重塔」の清掃ボランティア



▲平成21年 秋のバスハイク(山口県防府市)

博物館友の会 平成22年度の主な行事

●7月18日 バスハイク

福岡市美術館「日本・東洋美術名品展」、福岡市博物館「アーチカルワント展」観覧

みやこの歴史発見伝 39

元号「昭和」創案者

吉田増蔵 よしだ ますぞう

前半生

吉田増蔵(号..学軒)は、現み

やこ町勝山上田出身の漢学者で、宮内省官僚として元号「昭和」を創案するなどした人物です。

上仏山の私塾「水哉園」で学び、明治16年（1883）に上京。共立学校で英語を学んだのち、アメリカに渡りました（明治22～24年頃）。帰国後、本格的に漢学の勉強を始めた増蔵でしたが、明治30年（1897）に中等教育検定試験に合格、同34年には宮内省御料局に勤務するなどしました。その後、明治43年（1

（現豊浦高等学校）で教鞭きょうべんをとりました。

（現豊浦高等学校）で教鞭をとりました。

宮内省時代

大正9年（1920）10月、増蔵は宮内省図書寮の編修官となりました。図書寮は、皇統譜・御料台帳や天皇・皇族などの

森鷗外は、大正11年（1922）7月に亡くなりますが、特にその元号研究の系譜は吉田増蔵に引き継がれることになりました。

蔵書を一吉田増蔵君に贈るべし。吉田君の外善く之を用ゐるものなし」と記しています。鷗外が、どれほど増蔵を信頼しその才能を認めていたかを物語るエピソードです。

いとは裏腹に、時代は世界戦争へと向かって行きました。増蔵も宮内省の官僚として「米国及び英國に対する宣戰の詔書」の起草にたずさわることになりました。

しかし、この時すでに重い胃潰瘍を患っていた彼は、昭和16年（1941）12月19日、東京上落合の自宅で逝去しました。享年75歳でした。

26) 12月25日の枢密院会議(すみいんがい)で諮詢(はか)されて、増藏案の一つ「昭和」が新元号に決定したのでした。「昭和」は、『書經』(じょきょう)(政治史・政教を記した中国最古の經典)の一文「百姓昭明 共和万邦」からとつたもので、「全ての人民は明るく、全ての国は和やかに」の意味で、世界平和の願いが込められたものでした。

吉田增藏



実録の編修、図書の保管・出納などをつかさどった部局でした（今の宮内庁書陵部はその後身）。当時、増蔵の上司である図書頭は、軍医で作家の森鷗外でした。増蔵は鷗外に傾倒し、また鷗外も、増蔵が持つ漢学の才能を認めて、自らが行っていた元号研究の補助にあたらせるなどしました。鷗外は、その遺言書のなかで、所蔵する和漢の

吉田増蔵は、大正天皇の崩御に際して、宮内大臣より新元号の創案作成について内命を受けました。彼は、「神化」「元化」「昭和」などの10案を作成し、別の5案（宮内省御用掛の國府種德案）と共に、大正15年（19



作と吉田増蔵展】は6月13日まで。ぜひご
さい。